

第1回島田市都市計画マスタープラン等 アドバイザー会議／まちづくり市民会議 合同会議 議事概要

1 日時 平成30年7月3日（火）19:00～21:00

2 場所 島田市役所会議棟大会議室

3 出席者

アドバイザー会議：海道委員、寒竹委員、岩田委員、角入委員、玉置委員、内山委員（6人）

まちづくり市民会議：権田委員、荒井委員、戸塚委員、佐久間委員、木村委員、鶴川委員、
新聞委員、太田委員、北川（有）委員、田代委員、鈴木委員、堀崎委員
北川（未）委員、安達委員、杉浦委員（15人）

染谷市長、牛尾副市長、三浦都市基盤部長

事務局（都市政策課 大畑課長、平松課長補佐、大池係長、中野主査、田村主任技師、遠藤主査）

4 委嘱状交付

市長から、各委員へ委嘱状が交付された。

5 会長・副会長選出

委員の互選により、アドバイザー会議の会長に海道委員、副会長に寒竹委員が選出された。
また、まちづくり市民会議の会長に佐久間委員、副会長に新聞委員が選出された。

6 議事

事務局から、資料に基づいて、都市計画マスタープランの策定の目的、スケジュール及び体制等について説明がされた。次に、島田市のまちづくりへの思いについて、出席委員に発表していただいた。主な意見は以下のとおり。

【まちづくり市民会議委員】

- ・人口減少等の様々な問題が挙げられているが、市民の幸福度がどこかで実感できないと、次の世代にバトンタッチできないのではないかと思います。
- ・市民の幸福度は今までは、モノだったり、公共施設だったりと目に見える形であったが、これからは計画する側の視点に立った都市計画ではなく、島田に住んでいる人たちがどういったまちを使えるかという視点が重要であり、そこで得られるものが市民の幸福度に繋がるのではないかと思います。
- ・これからの島田市のまちづくりとしては、「街道文化を生かした大井川を中心としたまちづくり」と「高速交通体系と自然を生かしたまちづくり」を進めていければよいと思う。
- ・大井川が有名なことは知っていたが、川に水がないことに驚きを持ったことを覚えている。
- ・大井川の存在感を活かしたまちづくりができればいいと思う。
- ・居心地のよい場所（空間）をつくったらよいまちになるのではと思う。

- ・この 8 年間で商業の数が約 25%、製造業に関しては約 8%程度減少しており、元気がなくなっていると感じる。
- ・島田市の生産人口は、あと 12 年後には、約 1 万人減少すると推測され、非常に危機感を抱いている。
- ・島田市には、大茶園や大井川などの豊かな自然、観光産業、充実した交通インフラがあるため、それらを上手に活かして、後世に伝わる島田市をつくっていききたいと思う。
- ・まちもひと高年齢化になってきているが、昔から変わらない関係がずっと続いており、元気に過ごしている人が多いと感じている。
- ・まちのつくりも変わってきているが、普段の仕事の中で生活だけでなく交通の便も含めて困っているという意見もよく耳にする。
- ・退職を機に島田に戻ってきたが、まちに元気がないと感じている。
- ・島田市は急激に過疎化が進んでいると思うしおり、学校の統廃合を耳にすると危機感を感じる。
- ・田舎でもまちなかでもすべての人が夢を描けるマスタープランをつくっていききたいと思う。
- ・駅前、商店街、市役所周辺は、人がいなくて寂しい。
- ・島田市は自然が豊かで、大井川鉄道や川根温泉がにぎわっているので、もっと利活用できればと思う。
- ・人口は減少していくが、市民と他地域の人が島田市を訪れてもらえるような島田らしさのアピールと認知度を高めていければと思う。
- ・島田市は、若い世代からの知名度がとても低く、大学の友人らに聞くと、島田市を訪れたことがあるという人がほとんどいない。
- ・車を持たない世代ということもあり、島田市の印象が駅前になってしまうことが問題だと感じている。
- ・川根や伊久身などの豊かな自然を活かして、都会にはないような魅力をアピールできればよいと思う。
- ・住みやすくするためには、中心市街地の便利さを考えることも大切だが、島田ならではの山間地の魅力を知ってもらうことも大切だと思う。
- ・島田市は、道が空いていて人が少なく、子どもの頃は寂しいまちだと思っていたが、今となってはこれほど住みやすいまちはないのではと感じている。
- ・東京では、どこにいても車が多く、子どもにとって危ないと感じるため、島田はすごく快適に過ごせていると思う。
- ・幸福度というのは、年代や立場によって人それぞれだと思うが、この市民会議を通して、より市民幸福度が高い島田市をつくっていききたいと思う。
- ・島田に住んでいると当たり前だと思うが、大井川や蓬莱橋、茶畑などは他県の人に自慢できる島田の魅力であり、交通インフラは整っているため、住みやすいまちだと思う。この点を十分に活かしてまちづくりをしていきたい。
- ・地元を想う気持ちがないと人は根付かないと思う。
- ・生活を豊かにする上では、ハード面やソフト面で整備をする必要があるが、地元愛を育むことを意識しながら、計画づくりを考えていきたい。

【アドバイザー会議委員】

- ・色々な都市の良い所や悪い所を島田と比較しながら考えるとよりよいアイデアが出ると思う。
- ・吉田町と焼津市は、大井川を境に分けられているため、大井川の片側しか持っていない。その点、島田市は大井川の両岸を持っており、大井川を上手に活かすことが一つの鍵だと思う。

- ・10年後、20年後にはまちの姿はどんどん変わる。
- ・次の世代に繋げるためには、将来を幅広く想像し、時間の流れを考えながら、今のまちをどのようにしたらよいかを考えられたらよいと思う。
- ・島田は東海道新幹線、新東名及び東名高速道路などの骨格となる都市の交通軸が整備されている。
- ・幸福度、熱意も重要だがそれだけで生活できる時代ではないことを認識していく必要がある。
- ・30～40年続くまちにしていくためには、稼げるまちにしていく必要があるため、その辺りを計画に盛り込めたらと思う。
- ・今は変化の時代であり、これまでの計画ではなく、「使う」ための計画にしていく必要がある。
- ・選択と集中ですべきことを明確にしていくことがこれからの時代には必要であると考えます。
- ・静岡空港の開業により、島田市には海外からの訪日客が今後多くなると考えられる。その際に、訪日客の目的地となり得るかが大きいと思う。それらを踏まえ、今回の計画では景観の視点を盛り込んでいく必要があるのではないかと考える。
- ・島田の魅力をどのように伝えるかといった、情報発信の仕方を考えていく必要がある。
- ・島田市は、長い間、市民参加をベースにして取り組んできた行政の姿勢がとても立派だと思う。
- ・このマスタープランを策定することによって、何かひとつでもまちが変わる、もしくは変わるきっかけとなるような計画づくりをしていただきたいと思います。

以上